

### 第3回水と緑の森づくり会議（H29.2.16） 委員意見概要

○水と緑の森づくり事業の平成28年度実績報告及び平成29年度事業計画について

#### 【再生の森事業】

- ・再生の森事業の実績は面積で示されてもわかりにくいので、実施前後の写真があると比較ができてよいのではないか。（龜井委員）
- ・再生の森事業を知ってもらうためには、森林組合などが1軒1軒地域を歩いてPRしていかないと個人には広まらないと思う。（藤原委員）

#### 【みーもの森づくり事業】

- ・みーもスクールは、小中学校教員のふるさと教育の担当者の研修会や校長会に出向いて事業のPRをすると広がりがあるのではないか。（龜井委員）

#### 【森づくり推進事業】

- ・みーもサマースクールの案内について、子どもに関わるNPO等の団体も参加できるようにもっと情報がほしい。広報先が限定的なので、ウェブを使った情報発信の強化をしてはどうか。（中島委員）
- ・情報発信の方法について、フォトしまねなど紙媒体では効果が少ない。（藤原委員）
- ・情報発信のためのブースを地域のイベントに出展する際は、森林組合などの地元の関係者が参加してパンフレットなどを配ると良いのではないか。（和田委員）
- ・企業と連携して商品にみーもくんを使ってもらうなどすると、もっと広まるのではないか。（白築委員）
- ・JAしまねでやっている「あぐりキッズスクール」のような、年間を通した登録制のプログラムを作り、四季を通したレジャー感覚の森づくり体験を企画してはどうか。（白築委員）

#### 【その他】

- ・一般の人が事業に取組みたい際に、要望に対応する事業が一目でわかるような案内があると、参加者はもっと増えるのではないか。（和田委員）
- ・地域の山の事を知っている森のコーディネーターや鑑定士がいてくれると、若い世代にも資源の大切さが継承されていくのではないか。（白築委員）

○平成29年度のみーもの森づくり事業の審査方法について

- ・判断基準となる事務局の評価や視点を示してもらえると、審査しやすい。（中島委員）
- ・団体からの提案をエリアで分けて、そのエリアに住んでいる委員が分担してみるとよりリアルな判断ができるのではないか。（白築委員）